

みんな えがきおで

宮城県教育委員会



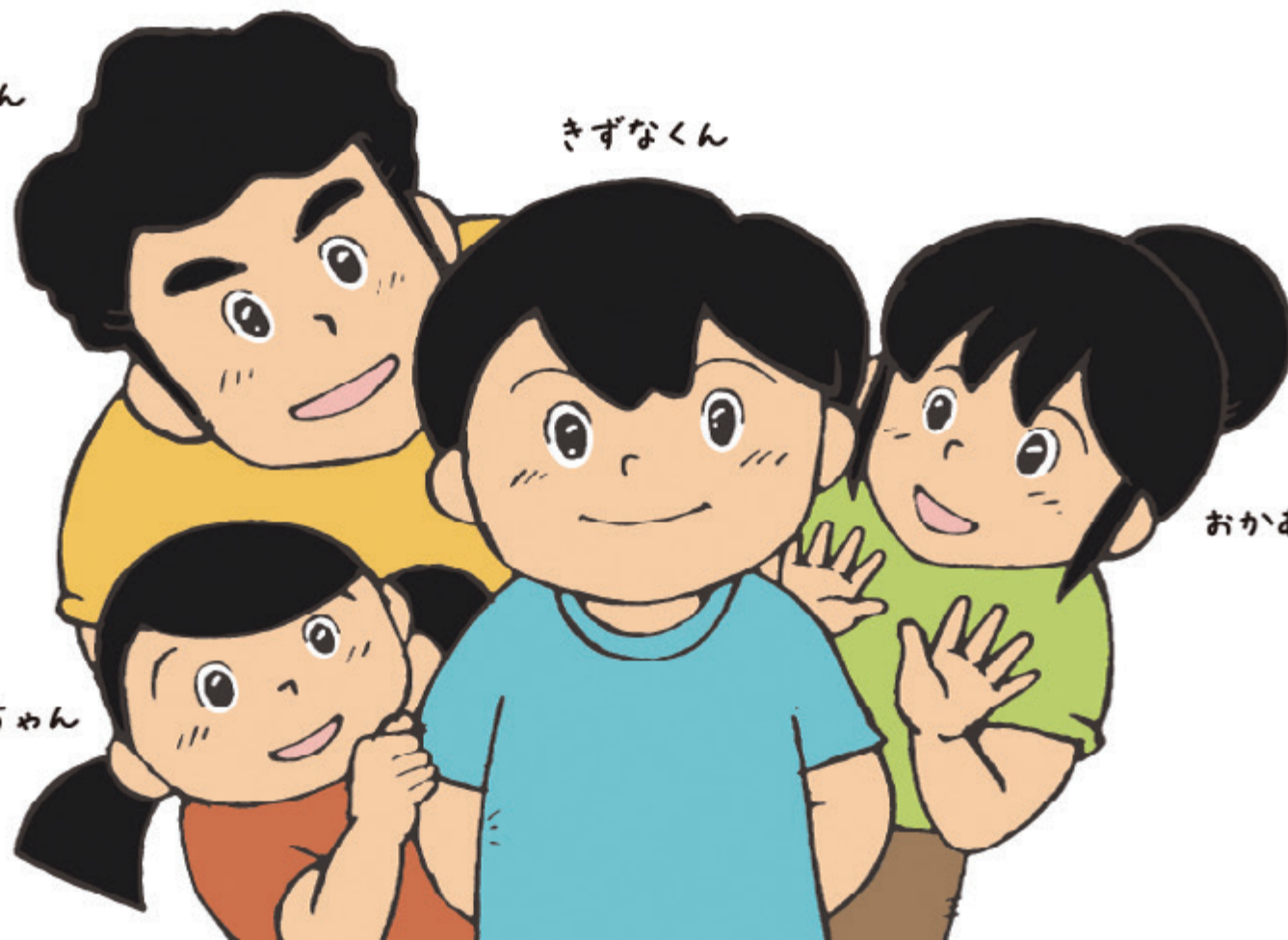
みんな えがきおで

おとうさん

きずなくん

おかあさん

みらいちゃん



ゆうごはんの ときの ことです。

おかあさんが、

「きずな、みらい、ようちえん、たのしかった？

きょうは どんな ことを したの？」

と ききました。

「みらいね、おえかきしたよ。おにいちゃんは？」

「ぼくは サッカー。でもね、また ひなくんれんが あったんだよ。」

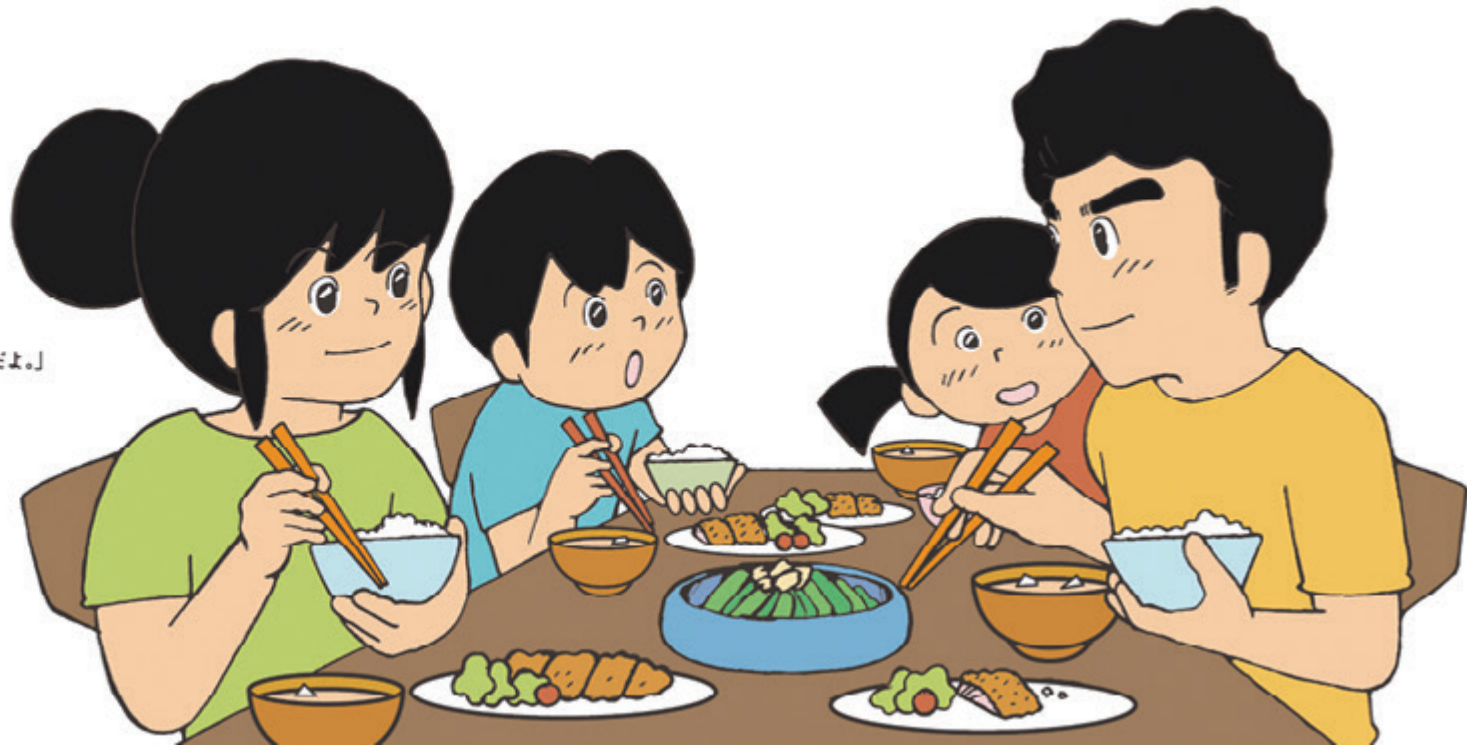
すると おとうさんが、

「どんな くんれんを したんだい？」

と ききました。

「あのね……。」

きずなくんと みらいちゃんは はなしはじめました。



みんなと サッカーを して いたら、

「くんれん、くんれん。」

じしんです！ おおきな じしんが おきました。

せんせいの いう ことを よく ききましょう。」

って、ほうそうが きこえて きたんだ。



おそとでは せんせいが、

「あたまを まもって ちいさく なりましょう。」

って いったから、ほくたち みんな ダンゴムシのように なったんだ。



みらいはね、おへやの なかで せんせいに、

「つくえの したに もぐりなさい。」

って いわれたの。

つくえの したに もぐって、

つくえの あしを ぎゅっと つかんだよ。



すこしてから また ほうそうが きこえたんだ。

「じしんは おさまりました。でも つなみが くるかも しれないので、
おかのうえこうえんに ひなんします。

みなさん いそいで ひなんしましょう。」

って。だから ぼくたち、いそいで おかのうえこうえんに いったんだ。
とおくて すごく つかれたよ。はああ。

「みらいも つかれた。」



津波避難場所

おかのうえこうえん

さずくんは、

「ねえ、おとうさん、どうして ひなんくんれんを するの？」
と ききました。

すると おとうさんは こんな はなしを して くれました。

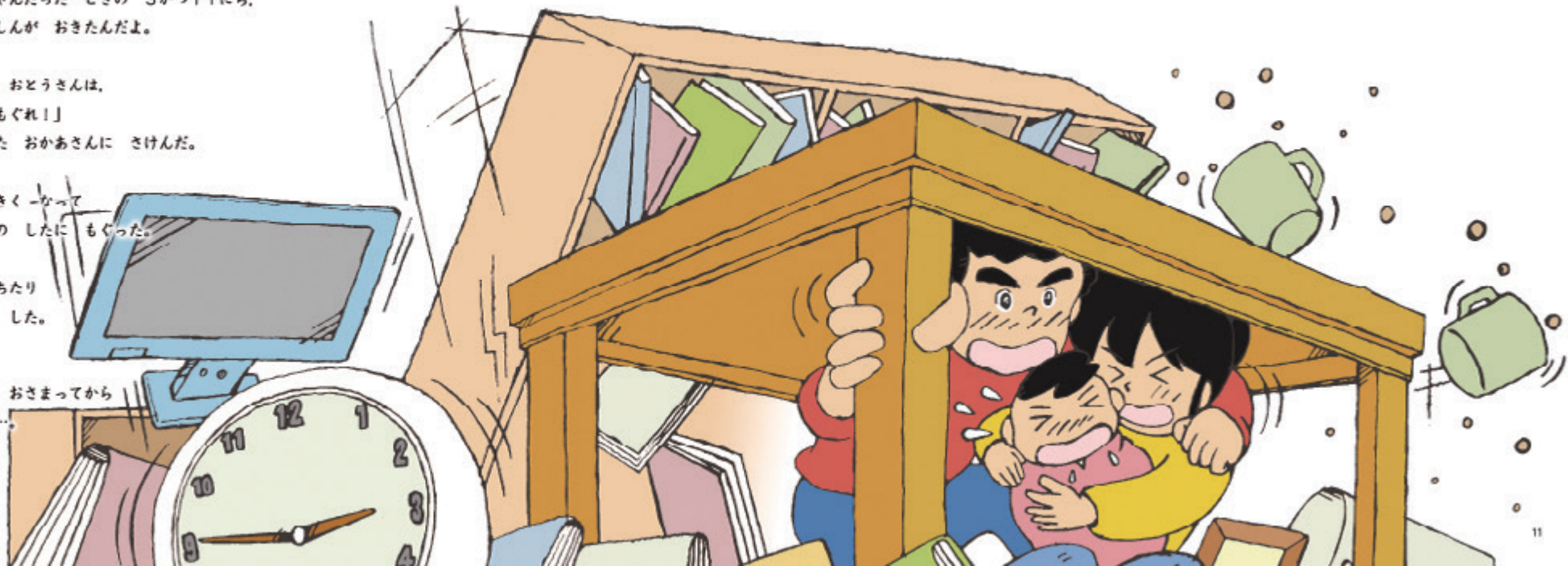
きずなが まだ あかちゃんだった ときの 3がつ11にち。
とっても おおきな じしんが おきたんだよ。

じしんが おきて すぐ おとうさんは、
「テーブルの したに もぐれ！」
と、きずなを だっこした おかあさんに さげんだ。

どんどん ゆれが おおきく ーなって
おとうさんも テーブルの したに もぐった。

コップや とけいが おちたり
ほんだなが たおれたり した。

ながい ながい ゆれが おさまってから
そとに でて みると……



いえが つぶれたり、でんちゅうが たおれたり して いた。
どうろには ひびが はいって いたし、
けがを して いる ひとも いた。

その あとで なんとも ゆれた。
おかあさんは きずなを だいた まま。
「こわい。」
と いったんだ。
おとうさんも とっても こわかったよ。

その とき だれかが、
「つなみが くるぞ! たかい ところへ にげろ!」
と、さけんだんだ。

おおきな じしんの あとは つなみに きを つけなければ いけない。
おとうさんたちは いそいで にげた。

やまのうえについてからうみのほうをみていたら、
まちにくろいつなみがおしよせてきた。
なんかいもなんかいも—おおきななみがやってくる
いえもくるまもまちもあつというまにながされた。

おとなもこどももたくさんのひとがなくなってしまった。
もしもあのとき、にげていなかったら……。

そのときのことも、
「ひがしにほんだいいんさい」
というんだよ。

しんさいのあと、

「まちを もとに もどそう！」

と、おとなも こどもも じぶんが できる ことを がんばったのよ。

とおい ところから てつだいに きて くれた ひとが たくさん いたわ。

にほんじゅう せかいじゅうの ひとたちが おうえんして くれたの。

たくさんの ひとの たすけが あって、みんなは すこしずつ

えがおに なって いったのよ。



「そうか……。そんな ことが あったんだね。
みんな えがおに なると いいね。」





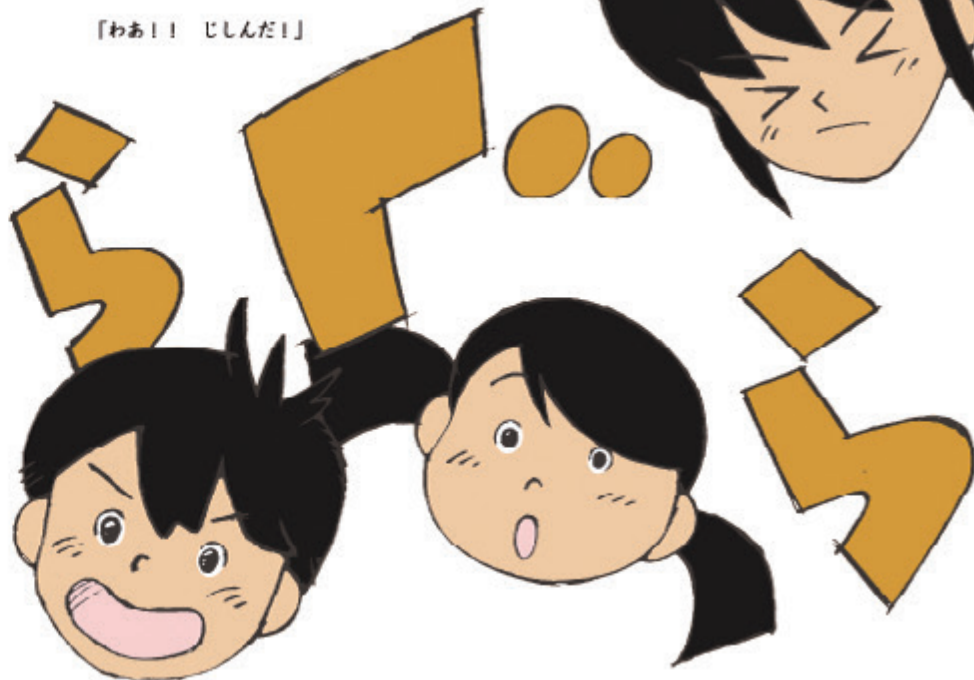
きょうは にちようび。

きずなくんと みらいちゃんは
いっしょに えほんを よんで います。

その ときです！



「わあ！！ じんだ！」





みらいちゃんが、
「こわいよう！ こわいよう！」
ヒ さげんだので、さずなくんは、
「だいじょうぶ！ テーブルの したに
もぐるんだよ！」
と いいました。

そして いっしょに テーブルの したに
もぐりました。



おかあさんは ふたりの ところへ かけよりました。

おとうさんは いそいで へやに はいって きて、
「つなみが くるかも しれないから、ひなんしよう！」
と いいました。

テレビを つけると、

「この じしんに よる つなみの しんばいは ありません。」

と きこえて きました。

おかあさんが、

「ひなんしなくて いいのね。よかった。」

と いったので、きずなくんは ほっと しました。



おとうさんが、
「きずな、みらい、じしんが きた とき、
すぐに テーブルの したに もぐれたね。えらいぞ！」
と いいました。

「だってね、ぼく「じしんが おきたら あたまを まもりなさい。」
って せんせいに おしえて もらったんだよ。」

おかあさんは、
「ようちえんで おそわった ことを ちゃんと おぼえて いたのね。
おかあさん うれしいな。」
と いいました。

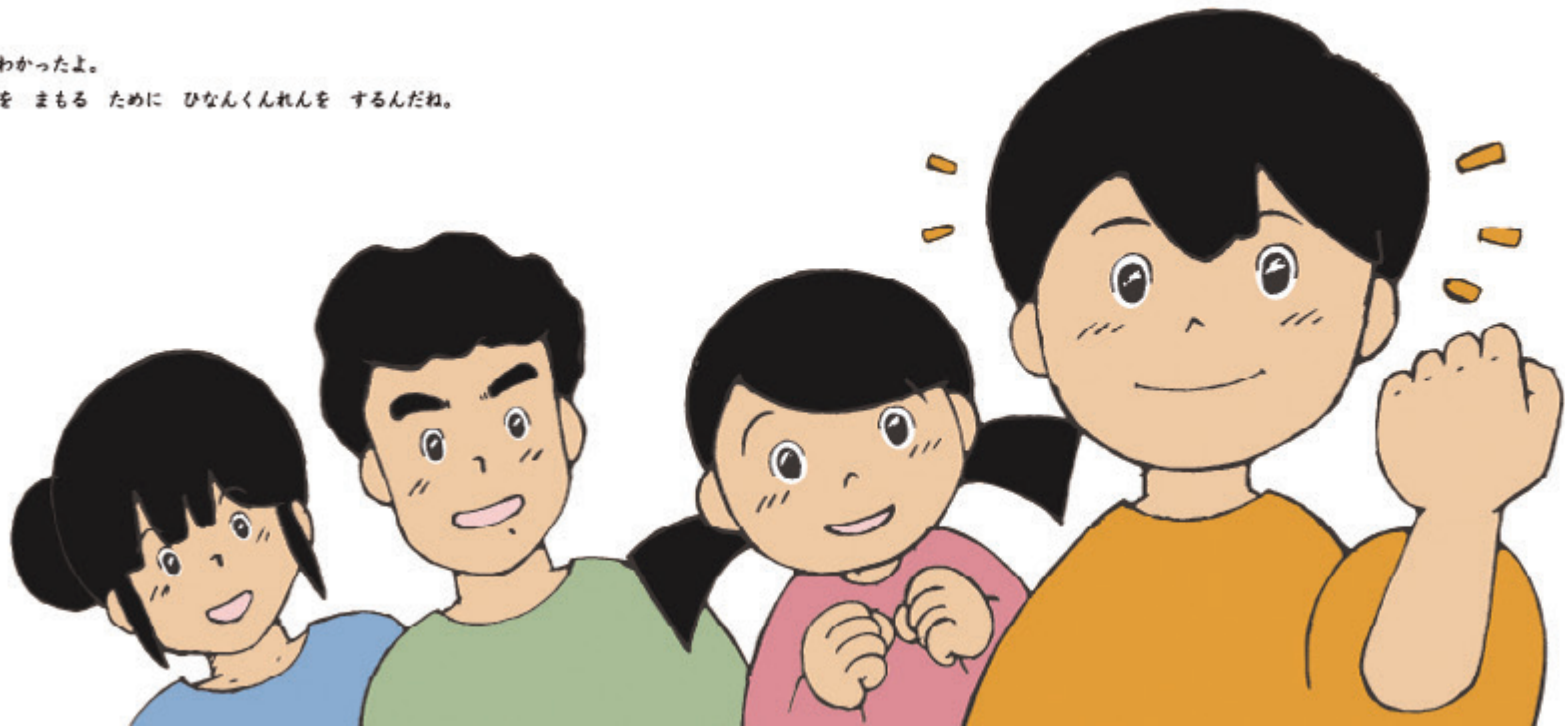
「おにいちゃん ありがとう。」
と みらいちゃんが いいました。

きずなくんは うれしく なりました。



ぼく わかったよ。

いのちを まもる ために ひなんくんれんを するんだね。



ひとりで いる ときに じしんが おきても、

じぶんの いのちは
じぶんで まもるよ！